

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

2014/2015 Annual Cruise Report of the T/V
Shioji-maru Voyage : Fiscal Year 2014 Cruise
Report

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1253

1. 平成 26 年度（2014 年度）航海報告（Fiscal Year 2014 Cruise Report）

1.1 概要（Annual Cruise Summary）

練習船汐路丸は、東京港を母港とし東京湾、館山湾及びその周辺海域において実習航海及び実験航海等を行っている。

平成 26 年度（2014 年度）は、新入生オリエンテーション航海、実習航海、演習航海、実験航海、公開講座、共同利用航海、研修航海、入渠工事航海などで、延べ 115 日、3,787 海里航走した。

新 1 年生を対象としたオリエンテーション航海は入学式後である平成 26 年 4 月 8 日午前に海事システム工学科、4 月 9 日午前に流通情報工学科、4 月 9 日午後に海洋電子機械工学科が乗船し、東京港見学及び船内見学を行った。

実習航海は、海事システム工学科航海システムコース 3 年生、海事システム工学科情報システムコース 3 年生、海洋電子機械工学科機関システム工学コース 4 年生、海洋電子機械工学科制御システム工学コース 3 年生及び流通情報工学科 3 年生が乗船した。

海事システム工学科航海システムコース 3 年生は、前期と後期の実習航海を行った。前期は平成 26 年 5 月 7 日から 5 月 15 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、船舶運航の基礎、揚投錨操船、気象観測に関する知識を学ぶことを目的とした。



Fig.1.1 揚投錨操船実習



Fig.1.2 機関特性測定実験

後期は平成 26 年 10 月 7 日から 10 月 24 日の間、前期同様 2 組に分かれて、それぞれ 4 日間の実習を行った。この実習は、前期の実習項目の習熟と、海事英語の習得を目的とした。

海事システム工学科情報システムコース 3 年生は、前期と後期の実習航海を行った。前期は平成 26 年 6 月 3 日から 6 月 12 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行

った。この実習は、実船での操舵、運航を実施することで実船の挙動について確認すること、各種情報の必要性、取扱い方法を学ぶことを目的とした。

後期は平成 26 年 11 月 25 日から 12 月 4 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、自動制御実験及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的とした。

海洋電子機械工学科機関システム工学コース 4 年生は、平成 26 年 5 月 20 日から 5 月 29 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、推進・機関性能に関する実験、機関及び航海の実務に関する実習などを行い、総合的に船舶運航の特性を習得することを目的とした。

海洋電子機械工学科制御システム工学コース 3 年生は、平成 26 年 11 月 11 日から 11 月 20 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、Z 操縦試験、機関特性実験、機関当直及び船橋当直・停泊当直等を学ぶことを目的とした。

流通情報工学科 3 年生は、平成 26 年 4 月 15 日から 4 月 24 日の間、2 組に分かれて、それぞれ 3 日間の実習を行った。この実習は、船舶及び海上輸送の特徴と船舶運航の基礎を学ぶことを目的とした。

演習航海は、海事システム工学科航海システムコース 3 年生及び海事システム工学科情報システムコース 3 年生が 11 月から 1 月の間、各コース 2 組に分かれて、それぞれ 4 回、東京湾にて操縦性能測定、自動制御等の演習を行った。

また、海運ロジスティクス専攻（3 級水先）の学生が 6 月、7 月に 1 回ずつ乗船し、港内航路見学及び船体運動データと実際の船体運動の比較を行った。

上記実習航海及び演習航海には、担当教員が乗船し、学生の指導にあたった。

実験航海は、東京湾、館山湾及びその周辺海域において、それぞれ 3 日間の航海を合計 8 回行った。共同研究者として外部からは名古屋工業大学、宇都宮大学はじめ、商船高等専門学校、船用機器メーカーの職員らが乗船し、研究機材を用いてデータの収集を行った。各回とも限られた実験時間を有効に利用できるよう募集段階から細かな打合せを実施し、必要に応じて実験時期を変更させるなど、より効果的な実験環境を整えた。

公開講座は、平成 26 年 7 月 12 日に、公開講座修了者を対象として実施した。東京港から東京湾北部を時計回りに回りながら浦安沖、千葉港、東京湾アクアラインを見学し、横浜港内では 1 時間程度各岸壁を見学する時間を取り、その後川崎港、羽田空港沖を經由する東京湾見学航海を行った。

共同利用航海は、横浜国立大学、日本大学、芝浦工業大学の 3 大学、合計 12 日間の航海

を行なった。航海には、それぞれの大学から担当教員、TA 及び本学の担当教員が乗船し、学生の指導にあたった。

研修航海は、平成 26 年 9 月 17 日に一般社団法人日本舶用工業会加盟各社社員の乗船研修を、平成 26 年 10 月 2 日に一般社団法人日本伸銅協会加盟各社社員の乗船研修を行った。東京港から東京湾北部を時計回りに回りながら浦安沖、千葉港、東京湾アクアライン、横浜港、川崎港を経由する航海を実施し、船内見学や総員退船部署操練、航海当直を体験し、船舶運航や搭載機器に関する知見を広めた。

国際海事訓練セミナー航海は、平成 26 年 9 月 24 日から 9 月 26 日の間、海事システム工学科航海システムコース 4 年生とベトナム海事大学の教職員が乗船し、揚投錨操船等を通して、船舶運航に必要な海事英語を学ぶことを目的として有意義な実習時間を送った。

入渠工事航海は、平成 26 年 9 月 1 日から 9 月 12 日の間、新潟造船株式会社三崎工場に回航して修繕工事等を行った。

回航に併せて ISO 乗船研修を実施し、往航は 7 名、復航は 5 名の本学事務職員が乗船し、船舶運航についての知識を深めた。



Fig.1.3 海運ロジスティクス専攻演習航海

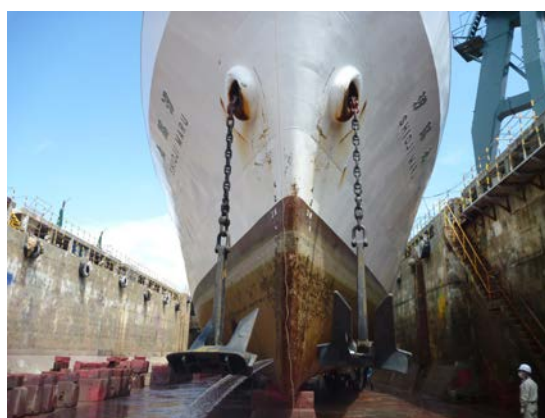


Fig.1.4 入渠した汐路丸

1.2 汐路丸要目表 (Ship Specifications)

Name of Ship: Shioji maru
Type: Training Ship, Motor Ship
Owner: Tokyo University of Marine Science and Technology
User: Tokyo University of Marine Science and Technology
4-5-7 Konan, Minato-Ku, Tokyo, JAPAN
Port Registry: Tokyo
Call sign: JG4644
Name of Master: Hideyuki KASHIMA
Dimension: Length Overall 49.93 meters Breadth 10.00 meters
Length (P.P.) 46.00 meters Depth 3.80 meters
Gross Tonnage: 425 tons
Main Engine: 4-stroke Diesel Engine 1,400ps × 1, Single Screw (C.P.P.)
Cruising Speed: 14.12 knot
Complement: Officer 6 persons, Crew 6 persons, Instructor 6persons,
Cadet 44 persons,
Total 62 persons
Navigational Equipments:
GPS navigation system, Radar with ARPA, Doppler sonar, E.M.log,
Echo sounder, AIS, ECDIS, Yaw-rate indicator, INT-NAV system,
Maritime Broadband Communication System etc.

このページは非表示です。

This page is hidden from view.

このページは非表示です。

This page is hidden from view.